

# ポラリスを仰ぐ北の大地から

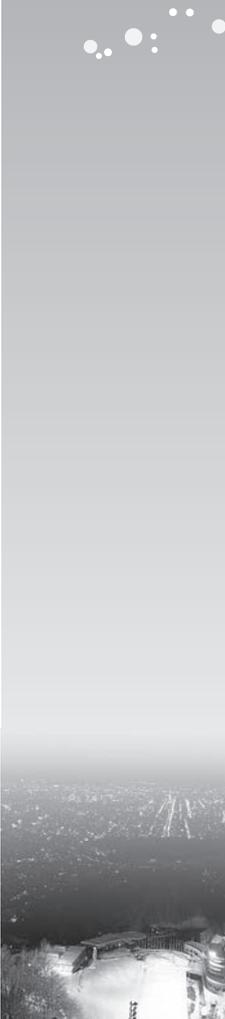


## ぼんやりと思うこと

羊蹄医師会 会長 皆川 幸範

令和元年8月24日札幌パークホテルで北大53期の同期会があった。毎年開催しているので出席者は25人程度と少なかったが、今年も学生時代から懇意にしていた友人がまた1人亡くなってしまった。5～10年周期で開催していたが、毎年亡くなる者がいるので毎年やるようになった。同期の計報は気が滅入るものだ。合掌。私事であるが、今年88歳の母親に肺癌が見つかった。煙草は吸わないが、亡くなった父親がヘビースモーカーで小生も同時に吸っていたことがあり、これも一因だとすると一寸心苦しい感じがした。同門後輩の南3条病院・加地先生に手術をして頂き、今では元気になっている。感謝。さて、10月25～26日には倶知安町でG20観光大臣会合が、ニセコHANAZONOリゾート（パークハイアットニセコHANAZONO）で開催予定されている。テーマは「持続可能な観光による地方創生～住んでよし訪ねてよしの地域づくり～」となっている。講演者の中に、以前我々の後志ブロック医師大会で特別講演を依頼したロス・フィンドレー氏の名があった。長年倶知安町に在住し、この地の魅力を世界に発信してきた第一人者である。喜ばしい。G20 観光大臣会合のPR動画が完成し、倶知安町のホームページで見ることができる。ご視聴を。そのウェルカムキャッチフレーズが「ようこそ北海道倶知安へ：ここから始まる観光の未来」で大阪府の方の作品が採用されたという。成功を祈りたい。

2030年には新幹線が通ることになり、それに伴い駅の建て替えやその周辺の街創り構想が明らかになりつつある。高速道路も開通する予定だ。あと11年この地で診療を続けていられるのだろうか。そして新幹線に乗ることができるだろうか、その頃この町はどのように変わっているのだろうか、などと考えている今日この頃である。



## リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019室蘭を終えて

室蘭市医師会 会長 野尻 秀一

今、2人に1人ががんになる時代です。リレー・フォー・ライフとは、がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんに向き合い、がん征圧を目指すチャリティー活動です。室蘭市では2008年より開催され今年で12回を迎えます。昨年は8月のダブル台風でやむなく中止とし、11月に講演会を開催しました。テーマは「たばこと肺がん治療について」、「受動喫煙防止について」です。

今年は8月24・25日でしたが前日までの大雨が嘘のようで、快晴に恵まれ開催することができました。テーマは日本対がん協会会長の垣添忠生先生をお招きして「我が国のがん対策における検診の重要性」について、また地元の医師に「白血病について」、「たばこと肺がんについて」講演をいただきました。もう一つの目玉は「がんと共に生きて、支えて」でサバイバーの方とケアギバーの方に集まっていただき、がんの告知を受けたときの感情、家族への通知、がん治療の闘病生活等を通して、そのときの心情、葛藤などについてお話ししていただきました。検診の重要性については誰もが認識しているところですが、その検診率は国民生活基礎調査（平成28年）によると、胃がん：男46.4%、女35.6%、肺がん：男51.0%、女41.7%、大腸がん：男44.5%、女38.5%、子宮がん：33.7%、乳がん：36.9%と国の目標の50%には及ばない現状です。特に国保の受診率が低く、行政とともに受診勧奨で如何に受診率を上げるかが課題です。サバイバーの方とケアギバーの方の対談では、一番心に残ったのは「大丈夫ですか？」と言わないで、大丈夫でないから治療しているの！の一言でした。私も日頃がん診療に携わっていますが、今回改めてサバイバーの方々の心の葛藤、不安な心理状態等に医療者側として如何に今後対応していけば良いのか、非常に考えさせられた2日間でした。この経験を改めて明日からの診療に生かしていきたいと思えます。